

なつめそうせき
夏目漱石

やまみち のぼ
山路を登りながら、こう考えた。
ち はたら かど た じょう さお
智に働けば角が立つ。情に棹させば
なが いじ とお きゆうくつ とかく
流される。意地を通せば窮屈だ。兎角
ひと よす
に人の世は住みにくい。

21	16	11	6	1
22	17	12	7	2
23	18	13	8	3
24	19	14	9	4
25	20	15	10	5

あんしょう
一回読んだら、○をつけよう。
◎をつけよう。

くさまくら
草枕

②

なつめそうせき
夏目漱石

す 住みにくさが高こうじると、安やすい所ところへ
ひ こ 引き越こしたくなる。どこへ越こしても住す
み みにくいと悟さとった時とき、詩しが生うまれて、
え でき 画えが出来る。

21	16	11	6	1
22	17	12	7	2
23	18	13	8	3
24	19	14	9	4
25	20	15	10	5

あんしょう
一回読んだら、○をつけよう。
◎をつけよう。

なつめそうせき
夏目漱石

ひとよつく
人の世を作ったものは神でもなけ
おに
れば鬼でもない。矢張り向う三軒両
どな
隣りにちらちらする唯の人である。

21	16	11	6	1
22	17	12	7	2
23	18	13	8	3
24	19	14	9	4
25	20	15	10	5

あんしょう
一回読んだら、○をつけよう。
◎をつけよう。

夏目漱石 なつめそうせき

ただ ただ ひと ひと つく つく ひと ひと よ よ す す
唯の人が作った人の世が住みにくい
からとて、越 こす す 国 くに はあるまい。あれば ひと
人 ひと でなし くに の くに 国 くに へ行く ゆ ばかりだ。人 ひと でな
し くに の くに 国 くに は人 ひと の よ 世 よ よりもな す お す 住 す み す に す
かろう。

21	16	11	6	1
22	17	12	7	2
23	18	13	8	3
24	19	14	9	4
25	20	15	10	5

一回読んだら、○をつけよう。
暗唱 あんしょう できたら、◎をつけよう。